＜令和６年度秋季大会ミニシンポジウム＞

我が国における自主的資源管理措置 – 実践・検証、および今後の展開 –

日時・場所：令和６年９月２４日（火）　１３：００−１６：５０　第４会場
企画責任者：佐久間啓（水産機構 資源研）・山崎いづみ（水産機構）

13:00 - 13:10	開会の挨拶・企画の趣旨説明	佐久間啓（水産機構 資源研）
13:10 - 13:35	1. 世界および我が国の自主的資源管理	金岩　稔（三重大学）
セクション I.	日本海沖合底びき網漁業における自主的資源管理	
		座長：　木所英昭（水産機構 資源研）
13:35 - 14:00	2. ズワイガニの自主的資源管理と標本船調査	上田祐司（水産機構 資源研）
14:00 - 14:25	3. 自主的資源管理効果の検証 - 日本海西部のズワイガニを例に	佐久間啓（水産機構 資源研）
14:25 - 14:45	4. 日本海西部のアカガレイにおける自主的資源管理	藤原邦浩（水産機構 資源研）
14:45 - 15:05	休憩	
セクション II.	瀬戸内海クルマエビにおける自主的資源管理措置の提案	
		座長：　山本昌幸（福井県立大学）
15:05 - 15:25	5. クルマエビの資源生態および減少要因の検討	佐藤　琢（水産機構 技術研）
15:25 - 15:45	6. クルマエビの自主的資源管理に向けた資源ユニット・個体群構造の推定	菅谷　琢磨（水産機構 技術研）
セクション III.	我国における自主的資源管理制度	座長：金岩　稔　（三重大学）
15:45 - 16:05	7. 自主的資源管理に利用可能な制度	藤原　孝浩（石川県）
16:05 - 16:25	8. 制度の運用と現状の課題	山崎いづみ（水産機構）
16:25 - 16:45	総合討論	座長：上田　祐司（水産機構 資源研）
16:45 - 16:50	閉会の挨拶	山本　昌幸（福井県立大学）

企画の趣旨

平成 30 年の漁業法改正に伴い、漁業者の自主的な管理措置が公的な資源管理方策の一部として位置づけられた。自主的管理措置の導入に関する具体的な方法について記載した資料が少ない中、水産機構では日本海西部のズワイガニおよび瀬戸内海のクルマエビを例に、それぞれ異なる背景のもとに検討されてきた自主的資源管理の方法論に関する事例集を作成した。本シンポジウムでは事例集の内容を踏まえつつ、新たな解析結果も交えて、より踏み込んだ議論を行う。また、自主的資源管理の導入に際して現状で利用可能な制度および運用上の課題についても議論を広げるとともに、自主的資源管理を取り巻く世界的な情勢についても最新の知見を交えて紹介する。

＜令和６年度第２回水産増殖懇話会ミニシンポジウム＞

「関西圏の増養殖のホットトピックス」

日　　時：令和６年９月２４日　13:00-17:00
開催方式　：対面のみ
企画責任者：木下政人（京都大学）、家戸敬太郎・澤田好史（近畿大学）
会　　場：京都大学農学部総合館（秋季大会会場）　第６会場

13:00-13:05 趣旨説明　開会の挨拶　木下政人（京都大学）
第Ⅰ部　　座長：木下政人（京都大学）
13:05-13:45　京都府におけるトリガイ増養殖の歴史
谷本尚史（京都海セ）
13:45-14:25　琵琶湖漁業とホンモロコ増殖の取組
寺井章人（滋賀水試）
14:25-15:05　養殖ノリの食害原因種クロダイの行動生態
高倉良太（兵庫水技セ）
（休憩）
第Ⅱ部　座長：家戸敬太郎（近畿大学）
15:20-16:00　大阪府における「あこう（キジハタ）」増殖の取り組み
辻村浩隆（大阪環農水研）
16:00-16:40　クエタマの種苗生産と養殖特性
中田　久（近大水研）
16:40-16:55　総合討論　木下・家戸
17:00　　閉会の挨拶　　家戸敬太郎（近畿大学）

企画の趣旨

FAO の統計による世界の魚介類の漁業生産量を見ると、漁獲による生産量はこの30年間ほぼ変動していないが、養殖による生産量は毎年増加しており、既に漁獲による生産量を上回っている。本邦においても、近年異業種からの養殖業への参入や海外資本の流入により、増養殖への関心が非常に高まっている。本ミニシンポジウムでは水産学会秋季大会会場の京都近辺での増養殖に関連するトピックを紹介し、今後の日本の食文化を継承するための水産業の発展に不可欠と考えられる地域性について知見を深めたい。

<令和 6 年度日本水産学会秋季大会内シンポジウム>
共催：科学技術振興機構（JST） ACT-X「環境とバイオテクノロジー」領域

水産学若手の会交流企画
新たな連携から見る水平線の先

日時・場所：令和 6 年 9 月 24 日（火曜日）13:00-16:00 ・第 3 会場
企画責任者：小祝 敬一郎（東京海洋大学）、山本 慧史（水産研究・教育機構）、松井 英明（水産大学校）
富安 信（北海道大学）、川村 亘（熊本大学）

13:00 開会の挨拶.....野村 暢彦（筑波大学/ACT-X 環境とバイオテクノロジー 研究総括）

座長：山本 慧史（水産研究・教育機構）

13:10 環境 DNA を用いた魚類生態と多様性の解明 ..... 村上 弘章（東北大学）

13:35 微生物ゲノム情報から "推し" 遺伝子を探して "愛でる" ..... 井上 真男（立命館大学）

14:00 ウイルスの振る舞いから見つめる、コミュニティーの少し先..... 高橋 迪子（高知大学医学部）

座長：松井 英明（水産大学校）

14:25 巨大ウイルスはなぜ大きいか ..... 疋田 弘之（京都大学・化学研究所）

14:50 試験管実験を超える新しい実験系の創出 ..... 吉村 柾彦（京都大学・iCeMS）

15:15 生殖細胞移植で小型サバ科魚種のスマにマグロの精子を作らせる ..... 川村 亘（熊本大学）

15:40 総合討論 & 閉会の挨拶 ..... 座長：小祝 敬一郎（東京海洋大学）

企画趣旨

2014 年に発足した水産学若手の会は、今年で 11 年目の活動を迎えます。この 10 年の間、われわれの研究対象である海に関する問題をはじめ、環境問題や社会課題の克服に向けて、研究者への期待は増すばかりです。それらの難題の解決には、独創的なアイデアにより飛躍的な科学・技術革新を巻き起こしうる人材育成が必要です。これには、異分野との融合によるイノベーション創出が欠かせません。

本シンポジウムは、JST ACT-X 環境とバイオテクノロジー領域のご共催を受け、異なる学会に所属する若手研究者同士で、新たな視点から水平線を見据える場とします。今回のシンポジウムでは、学会という枠組みを少し超え、異分野の若手研究者同士が交流し、新たな連携の可能性を模索したいと考えています。他学会からの講演者には、それぞれの分野の最先端の研究をご紹介いただくだけでなく、所属学会の特色や特徴的な研究手法などを紹介していただくことで、皆さんの研究活動に新たな刺激を与えたいと思っています。総合討論では、他学会の若手の会の取り組みや成果の紹介、共同研究の可能性について、皆さんと共に深く掘り下げていきます。

このシンポジウムを通じて、皆さんが異分野の研究者との交流を通じて新たな視点を得るだけでなく、共同研究や知識交流の可能性を広げ、次世代のリーダーとして活躍するための基盤を築いていただければと願っています。普段の水産学会ではなかなか聞くことのできない貴重なお話しもあるかと思います。自由で幅広い情報交換を学会の垣根を越えて行うことが目的ですので、大学や公設研究機関、企業の若手研究者諸氏の積極的な参加を期待しております。また、経験ある研究者のオブザーバーとしての参加も大いに歓迎いたしますので、この機会に是非、若手の会シンポジウムにご参集下さい。

＜令和６年度秋季大会シンポジウム＞

Blue Horizon: モーリシャス水産開発の水平線

日時・場所：令和６年９月２７日（金）　９:００-１７:００　第４会場
企画責任者：三谷　曜子（京大野生研）・東条　斉興（北大院水）・藤森　康澄（北大院水）

9:00－ 9:05　開会の挨拶　東条　斉興（北大院水）

Ⅰ. プロジェクト概要・活動紹介　座長：　藤森　康澄（北大院水）
9:05－ 9:35　1. 沿岸域の水産開発：海藻植生調査から見えること　秋田　晋吾（北大院水）
9:35－10:05　2. 沖合域の水産開発：漁業とのインターアクション　富安　信　（北大院水）
10:05－10:35　3. ヒューマンディメンション：社会経済開発　東条　斉興（北大院水）
10:35－10:50　休憩

Ⅱ. 各サブプロジェクト　座長：　秋田　晋吾（北大院水）
10:50－11:20　4. モーリシャス東岸における海藻植生モニタリング　南口　蒼太（北大院水）
11:20－11:50　5. モーリシャス沿岸域のバスケット漁における生物観察　得地　弘起（北大院水）
11:50－13:00　休憩（昼休み）
13:00－13:30　6. FADs 周辺で行われる立縄漁業と漁具の特性　江川　柊真（北大院水）
13:30－14:00　7. 参加型活動を通じた調査と普及　東条　斉興（北大院水）
14:00－14:30　8. インド洋での海棲哺乳類鳴音モニタリング　三谷　曜子（京大野生研）
14:30－14:45　休憩

Ⅲ. 現地側の活動　座長：　東条　斉興（北大院水）
14:45－15:15　9. FAD Management Strategies using socio-economic and fishery-based indicators, in the context of Mauritius　Vibhushan SENEDHUN（北大院水）
15:15－15:45　10. Spatio-temporal evaluation of marine coastal resources for effective management toward development of a sustainable Blue Economy in Small Island Development States: A case study of the Republic of Mauritius　Vinesh EMRITH（北大院水）
15:45－16:15　11. 多様な現地活動と未来への挑戦　菅野　一彦（商船三井）
16:15－16:30　休憩

Ⅳ. 総合討論　座長：　三谷　曜子（京大野生研）
16:30－16:55　総合討論
16:55－17:00　閉会の挨拶　藤森　康澄（北大院水）

企画の趣旨

青い海の広がるモーリシャスでは，海洋生態系サービスからの恩恵で成り立つ漁業や観光産業の開発が進められている．しかし，人間活動の活発化は，海洋環境への負荷へとつながることもあり，そのモニタリングをしつつ持続的な発展を進めていくことが必須である．現在，こうした活動を促進するため，商船三井モーリシャス自然環境回復保全国際協力基金による“Blue Frontier”プロジェクトが進められている．本シンポジウムにおいては，現在行われている活動内容について共有し，開発途上国における海洋を基盤とした持続可能な発展の在り方について議論を深め，今後のインド洋での研究活動の振興を図る．

＜令和６年度日本水産学会秋季大会水産環境保全委員会企画研究会＞

琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化：瀬戸内海と比較して考える

日時：令和６年９月２７日（金）９：３０～１６：３０
企画責任者：今井一郎（北大）・児玉真史（水産機構）・酒井明久（滋賀水試）・大塚泰介（琵琶博）
場所・方法：第３会場　および Zoom によるハイブリッド形式

研究会参加申し込みはこちらから（https://forms.gle/xKTmzUR5pFrcssg4A）

１．開会・・・水産環境保全委員会委員長

２．趣旨説明・・・今井一郎（北大院水）

３．話題提供

I．琵琶湖における環境変動と貧栄養化、漁業生産の減少

１）琵琶湖における栄養塩流入負荷量と水質等の推移・・・・・・・・大山明彦（滋賀水試）
２）プランクトンの変動・・・根来 健・大塚泰介（琵琶博）
３）漁業生産の変動
〇近年のアユ資源の状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・尾崎友輔（滋賀水試）
〇ホンモロコおよびニゴロブナの 0 歳魚の資源状況について・・・根本守仁（滋賀水試）
〇近年のセタシジミの資源変動と親貝の肥満度の関係
・・・孝橋賢一・井戸本純一（滋賀水試）

・・・・・・・・・・・・・・・・昼休憩・・・・・・・・・・・・・・・・（１２：００～１３：００）

II．湖底耕耘の可能性

４）湖底耕耘の可能性：休眠期細胞の活用・・・・・・・・・・・・・・今井一郎（北大院水）
５）琵琶湖における湖底耕耘による漁場生産力回復への試み・・・・・大山明彦（滋賀水試）

III．瀬戸内海における近年の環境変動と水産資源

６）瀬戸内海における水産資源の動態：温暖化／貧栄養化の影響を受けている資源
・・・・・・・・・・・・山本昌幸（福井県立大）
７）水質-低次・高次生物の繋がりから見た栄養塩・水温に対するイカナゴ資源の応答
・・・・・・・・・・・・相馬明郎（大阪公立大）

・・・・・・・・・・・・・・・・休憩・・・・・・・・・・・・・・・・

４．総合討論・・・進行：企画責任者（１５：１５～１６：２５）

５．閉会・・・水産環境保全委員会副委員長

＜開催趣旨＞　琵琶湖では、近年アユやニゴロブナ、ホンモロコ、セタシジミといった固有の水産資源の生産不良が顕在化している。この原因として、気候変動、全循環の停止・短期化、貧栄養化といった環境変化の直接的・間接的影響による、生態系構造の変化や生産力・環境収容力の低下が指摘されている。本研究会では、こうした背景をふまえ琵琶湖における環境、水産資源の現状を概観するとともに、先行して研究や取り組みが進んでいる瀬戸内海と比較して議論することによって相互理解を深め、それぞれに必要な研究の方向性と対策の検討に資することを目的とする。